

衛星画像解析(AI活用)を使った漏水調査を実施しています

本市の道路の下には、総延長約677kmの水道管が張り巡らされています。そのうち約40%がすでに40年以上経過しています。老朽化が進むとひび割れや鉄さびの塊が生じ、断水や濁り、道路陥没などの漏水事故の原因になります。それらを未然に防ぐため本市では、AIによる漏水調査を取り入れました。

全国的にも活用事例が少ない調査手法

衛星画像を用い、AIによる解析を行うことで、地中での漏水を発見します。漏水か所を効率よく発見し早期に修繕することで、漏水率の改善や経費削減などが見込まれるとして、令和4年度に県内で初めて本市が導入しました。

数か月で市内全域を一度に調査解析

これまででは、市内を南北に分け、2年で漏水調査を

行っていたので、調査期間の短縮や経費削減につながりました。令和4年度の調査では、市内で177か所の漏水の可能性のあるか所を発見。そのうち41か所が実際に漏水していたため修繕しました。

衛星から漏水を発見するイメージ図



< 県域水道一体化の最新情報 >

水道料金の算定期間が提示されました

第2回奈良県広域水道企業団設立準備協議会が10月5日に開かれ、令和7年4月の事業統合を目指し、当初から料金統一を実施するとして従来の枠組みに沿って検討することが確認されました。統合後の水道料金は、物価や金利動向、人口減少に伴う水需給の減少など、不確定要素や社会情勢を勘案し算定期間を5年から3年に短縮するなど新たな論点

が提示されました。水道料金は、健全な事業経営が確保できるよう適正・妥当な水準へ確実に改定する必要があるため、一定の基準を定めて算定期間ごとに算定します。

基準内であれば改定は行わないため、算定期間ごとに直ちに料金改定が必要であると判断されるわけではありません。

水道管の凍結を予防しましょう

□凍結しやすい水道管

- ・むき出しになっている管
- ・北向きの日陰にある管
- ・風当たりの強い屋外にある管

□水道管が破損したら

メーターボックス内のバルブ(元栓)を閉め、生駒市指定給水装置工事業者(市水道事業ホームページ参照)に修理を申し込んでください(修理は有料)。

詳しくはこちら▶



□凍結を防止するには

水道管や蛇口に保温材や布などを巻き付けます。その上からビニールテープなどを巻き、直接冷気を受けないようにしてください。



□凍結して水が出ないときは

自然に溶けるのを待つか、蛇口を開けて凍結部分をタオルや布で覆い、ぬるま湯(お風呂のお湯くらい)をゆっくりとかけてください。

